

一般質問(6月18日)

① くらよしアイズ・倉吉自民共同会派の藤井隆弘です。くらよしアイズの「アイズ」とは何かと聞かれることもあります。「アイズ」の意味は、「目線、思いを知らせる、約束」等から来ています。

さて、今回は、次の3点について質問いたします。

- 1 市長に、教育委員会制度改革に関わって市長と教育について
- 2 教育長に、学校教育について。
- 3 選挙管理委員長に、選挙に関して。 です。

本日は、岸田選挙管理委員会委員長にお出で頂いておりますので、順番を変えて選挙に関してから入らせて頂きます。

○投票率を上げるために ○投票区について あわせて伺います。

昨年の倉吉市議会選挙では、61.37%と最低の投票率でした。身近である市議会の選挙の投票率としてはショッキングな数値であると選挙管理委員長も言っておられ、「活発な議会活動の展開、選挙人の意見や要望などが反映された政策の立案への取組を」というエールを頂きました。市議会でもこのことを肝に銘じ、議会活動を進めています。私個人も、分かりやすい議会という視点で議会だよりの配布・ホームページなどに力を入れているところです。選挙管理委員会という立場で様々な啓発活動、投票率向上に向けた取組を考えておられると思いますが、いかがでしょうか。

次に、投票区のあり方についてです。期日前投票や不在者投票といったことも考えられるかもしれませんが、基本的には実際に投票会場に行って自分の意思表示をして頂くのが中心だと思います。そこでお聞きしますが、現在の倉吉市の投票所(投票区)の現状と、課題だと考えておられることがありましたら、教えて下さい。また、課題に対する見直し案などありましたら挙げて下さい。

② 投票区による人数のばらつき、人員の確保、経費削減等厳しい状況があること、その中でもより投票率を上げるための見直しを考えておられることが分かりました。

有権者の方から「投票には行きたいが、年を取って投票に行く

のが大変だ。」という声をお聞きすることがあります。例えば、私の住んでいる上井地区でも河北中学校が移転したのに伴い、JR 山陰線の線路を越えかなり歩いて投票所へ行かなければならない地域もあります。3分の1ほどの距離の場所に別の投票所（河北小学校）があるにもかかわらずです。また、わずかな距離の間に河北中学校と倉吉体育文化会館という2つの投票所ができることとなりました。

今後、選挙（投票区）に関して選挙管理委員会として市民の意見を聞く中でよりよいものにして頂きたいと考えます。歩いて投票に行くのが大変だと感じておられる人に行きやすいよう投票会場の見直しをすること、公の場ということと言うなら、例えば、上井地区では交通の便もよく、駐車場も使用可能な倉吉駅1階にあるエキパルを使うことなども考えてみてはどうでしょうか。駅周辺まちづくりという点でも意味のあることだと思いますが、如何でしょうか。

③ 次に、市長に、教育委員会制度の改革に伴うことを中心に、市長と教育という視点からいくつかお聞きします。

6月13日 参議院本会議で改正地方教育行政法が成立し、来年4月から施行されることとなりました。主な内容は、

- ①市長主宰で総合教育会議を開催する。メンバーは、市長と教育委員会とする。
- ②総合教育会議で教育振興施策の「大綱」（基本原則）をつくる。総合教育会議で大綱や、学校の統廃合等について協議する。
- ③市長は、教育長（現在の教育長＋教育委員長：任期3年）を直接任免・罷免できる。等です。

このことに関連して、平井鳥取県知事も先の県議会で「鳥取県は全国唯一、教育共同会議を設け、施策をすりあわせた上で予算計上し、教育行政に反映させるシステムを採用している。総合教育会議は共同会議と非常に似ている。国が近づいてきた」と発言されています。

私は、教職員の人事、教科書採択などについては、教育委員会が取り組む事項として、大綱については総合教育会議で市長の思い

を教育委員会と協議するのはよいことだと思います。

総合教育会議は、現在行っている「市長と教育委員会の意見交換会」（本年度も第1回を6月24日に予定と聞いています）を発展させていけばよいと考えます。

いずれにしても、市長が教育に関してしっかりとした見識を持っていけばよい方向に進むと思います。

国の教育委員委員会制度改革についての市長の所見を伺います。

次に、学校再編と総合教育会議に関してです。「総合教育会議で大綱や、学校の統廃合等を協議する」と言いました。石田市長は、3月議会で「最終的に学校設置者は市長であり・・・出るべき時にはきちっと説明に出て合意形成に努力する」と答弁されました。市長が説明会などに出て、校区再編にあたっての課題、

- 1 再編にあたっての財政的な裏付け・財政計画
- 2 耐震化工事との関係、廃校になった場合の校舎・跡地の活用
- 3 保育所・小学校・中学校を含めた再編に関わる考え方
- 4 地域づくりからの観点 等を市長として説明される時です。

校区再編に関わっての説明会への参加、市長の予定はどうなっていますか。4月にあった高城地区自治公民館学校適正配置説明会（自治公民館長出席）に出席されましたか。

校区再編にあたっての課題の中に、耐震化工事のことをあげました。児童生徒の安全、避難所ということで、本市でも急ピッチで耐震工事を進めています。本年度末で83.9%の耐震化率になる予定です。国の補助率の嵩上げがあったことに加え、合併特例債を活用することで少しの（5%）一般財源の持ち出しで事業ができるからです。

しかし、5月臨時議会で議決された灘手小学校、上小鴨小学校また関連して教育福祉常任委員会で説明を受けた成徳小学校では様子が異なっています。4月の教育委員会の会議録を見て初めて分かったのですが、実施設計では灘手小学校・上小鴨小学校では耐震化は行われますが、老朽化改修は行われません。これまでにはなかったことです。教育委員会の要求はあったのですが、査定で落とされているのです。成徳小学校については、「明倫小学校と統合して一つにする案を示して市長とも協議した」という記録も

あります。

ここまで、具体的なことが出ているのであれば、耐震工事を含め校区再編に係る課題と方針について、総合教育会議できちんと整理する。それをもって説明をされるべきだと思います。

市長は、校区再編に関して「最優先は子どもたちの健やかな成長ということを第一義に考えていく必要がある」いわれませんが、そのためにも市民の間で議論を尽くしていくことが大切です。市のトップとして市長が出るのは、今だと思いますがどうですか。

④ 人材育成・人材確保と総合教育会議に関してです。このことにつきましては、いくつか提案も含めて準備していましたが、時間の関係で別の機会にさせて頂くこととして今回は取りやめいたします。

⑤ 次に、教育長に質問します。学校教育に関して、①学びの力の把握と向上対策について②PTA活動及び会費についてです。

国の補助金を伴うハード面以上に、教育は、ソフト面の充実が大切であると考えて質問いたします。まず、子どもたちの学びの力に関係してです。

①数字で分かる倉吉市の子どもたちの学力実態はどうか。

②学力実態をどのような検査・資料ではかっているのか

③子どもたちの学力をつけるために市として取り組んでいること、具体的な施策、そのための教職員の配置など3点についてお尋ねします。

⑥ 全国学力・学習状況調査、標準学力テスト等を活用していろいろな面から学力を把握していること、倉吉の子どもたちの状況はおおむねよいことは分かりました。また、学力向上のための方策もいろいろと取られていることも分かりました。人（教員配置）の面では、国の基準に加えて、県としての配置、市として少人数学級にしたり複式学級をつくらないために県に寄附金（協力金）を払うなどかなりのお金をかけていること、さらには倉吉市単独での職員の配置もあるということも分かりました。

ただ、小学校1年生から3年生の学力実態は分からないということです。低学年や中学年の時に学習習慣や学力をきちんとつけることが大切です。この段階からの力を把握し、対策を取ることが必要だと考えますが如何でしょうか。また、教職員の配置も含めて今のままでよいのか、もっと効果の上がる方法はないか見直しできることがあればして欲しいと思います。教育長如何お考えでしょうか。

次に、PTA活動と会費についてです。各学校のPTA総会資料を頂いてみましたが、各学校ともPTAとしてしっかりと活動されていることが伝わってきます。ただ、その活動を支えるPTA会費では、やや疑問の残る面がありました。義務教育は、本来、公費負担が原則です。しかし、学校図書館費や保健費などPTA会費で支援している学校がいくつか見られます。

学校図書館は、学習センターとしての重要性が高まっています。平成26年度予算では、学校図書館の図書購入や運営費は、小学校14校で419万円で1校当たり平均約30万円、中学校5校で250万円で1校当たり約50万円となっています。1冊当たりの平均を小学校1500円、中学校2000円と考えると、年間購入できる本は小学校で200冊、中学校250冊となります。これで十分でしょうか。図書費の不十分さがPTA会費による本の購入となって現れているのです。

図書費を一例に挙げましたが、やはり、教育費、特にソフト面での増額が必要なのではないでしょうか。教育長、どうお考えでしょうか。

⑦ 次に、こちらのチラシを見て下さい。河北中校区PTA連合主催による、河北中学校で行われた「PTA教育講演会」のチラシです。講師先生の熱気あふれるお話でとてもよい講演会でした。

このチラシの中に、〈お願い〉として「・駐車場は旧河北中学校のグラウンドをお願いします。」とありました。旧河北中学校のグラウンド行くと、約50台の車が止まっていました。そこから、約500メートルほど歩いて河北中学校まで行くわけです。これは、今回の講演会だけではなく、河北中学校では参観日等でも同

じようにしているとのことです。

旧河北中学校は現在県のものとなっているので、PTA 会費（総務部部費、教育懇談会費）の中から駐車場を借り、照明代まで出しているというのです。教育長ご存じでしたか。おかしいと思いませんか。なぜだか分かりますか。

理由は、こういうことです。河北中学校の運動場に車を乗り入れると校庭の状態が悪くなるからです。表面の土の下に荒い真砂土、直径5ミリから1センチの石がたくさん出てきてしまいます。雨で表面が流れてもこの状況になります。

開校後約半年たった昨年秋頃から運動場を使った時の擦り傷が多くなってきたことも学校保健委員会で報告されています。部活動で野球部などはスライディング禁止令がでるなど大変な状況です。生徒や先生が箒で掃くなど整備してもすぐ悪くなります。

これは、子どもたちには少しも責任のないことです。まして、保護者が PTA 会費で対応するようなことではないと考えます。早急に、根本的な対応をしなければならぬと考えます。

早急とは、すぐということですよ。来年から3年かけて直せばよいということではないですよ。

根本的というのは、全面的に改善をしなければだめだということですよ。もう一度言いますが、子どもや先生に責任はないのです。教育長どう考えますか。